

# 1. WHO 西太平洋地域事務局内における新興再興感染症の臨床マネジメントと感染管理向上事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

## 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

WPRO 域内では新興再興感染症のキャパシティが不十分な国が多く、近年は新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染拡大が世界中で継続している。

アウトブレイクの要因の1つとして、域内での臨床マネジメントや感染管理の不十分が指摘されている。

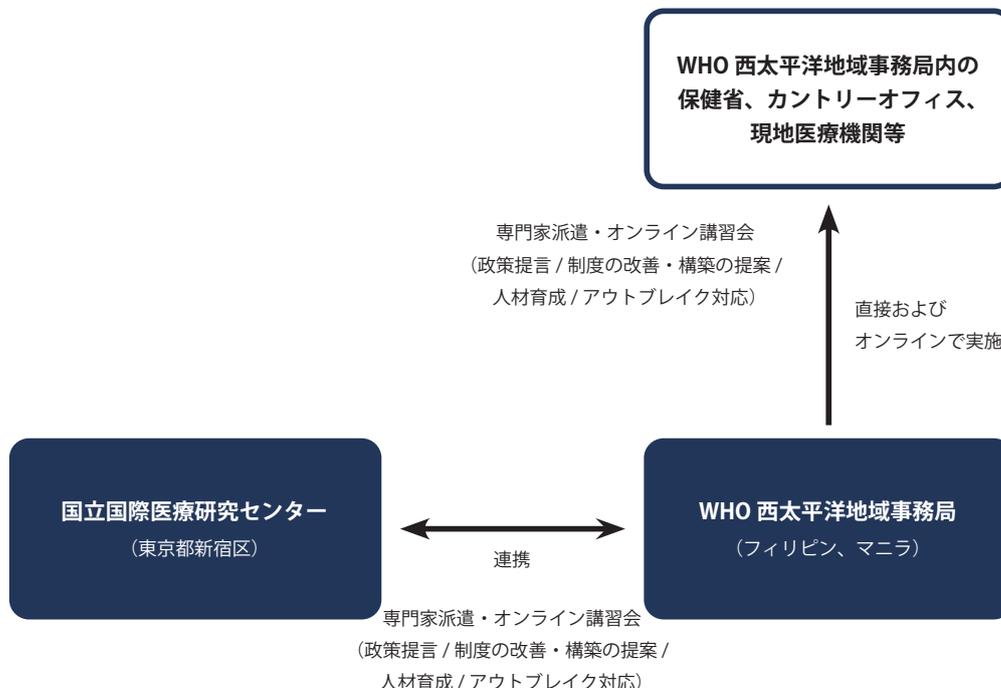
一方、日本では培われてきた臨床マネジメントや感染管理の医療技術がある。

## 【事業の目的】

日本でこれまで培ってきた COVID-19 などの新興再興感染症の臨床マネジメントや感染管理の医療技術を国際展開し、主に WPRO 域内における新興再興感染症の臨床マネジメント、感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策などを改善させる。

## 【研修目標】

- WPRO 域内において、WHO レベル、国レベル（保健省）、医療施設レベル、それぞれのレベルにおいて、日本で培われた新興再興の臨床マネジメントや感染管理の医療技術を用いて、研修会や現場評価を通じて、アウトブレイク対策や人材育成を行う。
- さらに、成果等を提言に含んだレポートとして少なくとも1回は WHO や国レベルに報告する。





## 今年度の成果指標とその結果

	アウトプット指標	アウトカム指標	インパクト指標
実施前の計画	①国際政府会議に直接およびオンラインで参加し、約50名を対象に臨床マネジメントと感染管理について提言を実施。 ②バックマイ病院（ハノイ、ベトナム）において、感染症専門医、感染管理看護師などを中心として医療従事者約100名に感染管理の技術指導を直接およびオンラインで実施。	①新興再興感染症の臨床マネジメントや感染管理の改善のための提言を含んだレポートをWHO、国（保健省）、医療機関レベルに少なくとも年に1回提出する。	①WHO、国（保健省）、医療施設レベルにおける新興再興感染症の臨床マネジメント、感染管理、抗菌薬適正使用のキャパシティ・ビルディング向上が期待される。 ②さらに、整備不十分な臨床マネジメント、感染管理、抗菌薬適正使用のガイドラインの策定も期待される。
実施後の結果	①WPROと各国とのウェブセミナー・研修を通じて、 <b>700名以上の</b> 医療従事者を対象に、主にCOVID-19の臨床マネジメントと感染管理について提言を実施した。 ②バックマイ病院（ベトナム）やモンゴル感染症センターの感染症専門医、感染管理看護師などを中心とする医療従事者 <b>約100名</b> に感染管理の技術指導を直接およびオンラインで実施した。	①新興再興感染症の臨床マネジメントや感染管理の改善のための提言を含んだレポートをWHO、国（保健省）、医療機関レベルに <b>計9回以上</b> 提出した。 ②モンゴルとカンボジア政府における <b>COVID-19のナショナル臨床ガイドラインのレビュー</b> を行った。	①WHO、国（保健省）レベル、医療施設レベルにおける新興再興感染症、特にCOVID-19の臨床マネジメント、感染管理のキャパシティ・ビルディング向上が期待された。 ・さらに、整備不十分な <b>COVID-19の臨床マネジメント、感染管理のガイドラインの策定</b> も期待された。

こちらは、今年度の事業の成果指標とその結果になります。お示しするように、アウトプット指標、アウトカム指標、インパクト指標いずれ

も達成できたと考えています。

今年度の相手国への事業インパクト
<b>医療技術・機器の国際展開における事業インパクト</b> ●事業で紹介・導入し、国家計画/ガイドラインに採択された医療技術の数 ・カンボジア、ラオス、モンゴルにおけるCOVID-19のナショナル診療ガイドラインについて、主に酸素飽和度測定モニターの使用法、デキサメタゾンの使用法、patient care pass ways、感染隔離解除基準について改訂を提言し、2021年3月時点で改訂中である
<b>健康向上における事業インパクト</b> ●事業で育成した保健医療従事者（延べ数）： <b>740名</b> ・遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを受けた研修生の合計数：740名 ・WPROとの共同セミナー：計4回、630名 ・バックマイ病院（ベトナム）：1回、50名 ・モンゴル感染症センター：1回、20名 ・ラオス政府：1回、20名 ・パプアニューギニア：1回、20名

今年度の相手国への事業のインパクトです。

### 医療技術・機器の国際展開における事業のインパクト：

カンボジア、ラオス、モンゴルにおける COVID-19 のナショナル診療ガイドラインについて、主に酸素飽和度測定モニターの使用法、デキサメタゾンの使用法、patient care pass ways、感染隔離解除基準について改訂を提言しました。各ガイドラインは 2021 年 3 月時点で改訂中です。

### 健康向上における事業のインパクト：

本事業における遠隔システムを用いた講義・実習・セミナーを通じて延べ 740 名の保健医療従事者を育成しました。

2020年度の成果
●2020年度はCOVID-19の影響で渡航困難となりオンラインでの研修が主な活動になったが、一方で <b>オンラインでの研修や教育の方法を確立</b> することが可能となった。 ●2020年度に行ったオンラインでの研修会 ・WPROとの共同セミナー、4回 ・バックマイ病院（ベトナム）、1回 ・モンゴル感染症センター、1回 ・ラオス政府、1回 ●特に、 <b>医療資源が限られている国や地域におけるCOVID-19の具体的なニーズ（デキサメタゾンの使用法や隔離解除基準など）</b> についても明らかとなった ●また、パプアニューギニアにおいては <b>COVID-19のアウトブレイク対応の遠隔サポート</b> も実施できた
今後の課題
●COVID-19の臨床マネジメントや感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策の改善に寄与したと考えられたが、これらの地域における感染症対策は日本と比べると不十分であり、 <b>継続的な日本の医療技術の展開が必要</b> と考えられる。 ●今後は治療や感染管理だけではなく、 <b>ワクチンに関するニーズ</b> も予想される。 ●対象国の感染症分野における公衆衛生・医療水準の向上に貢献できるよう、 <b>オンラインもしくはオンラインで医療技術の展開</b> を行っていききたい。

2020年度の成果と今後の課題です。2020年度は、COVID-19の影響で渡航困難となりオンラインでの研修が主な活動になりましたが、一方でオンラインでの研修や教育の方法を確立することができました。特に、医療資源が限られている国や地域における COVID-19 の具体的なニーズ

（デキサメタゾンの使用法や隔離解除基準など）を明らかにすることができました。また、パプアニューギニアにおいては COVID-19 のアウトブレイク対応の遠隔サポートも実施できました。

今後の課題です。2020年度の実績で COVID-19 の臨床マネジメントや感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策の改善に寄与したと考えられましたが、これらの地域における感染症対策は日本と比べると不十分であり、継続的な日本の医療技術の展開が必要と考えられました。今後は治療や感染管理だけではなく、ワクチンに関するニーズも予想されます。対象国の感染症分野における公衆衛生・医療水準の向上に貢献できるよう、オンラインもしくはオンラインで医療技術の展開を行っていききたいと考えています。

### 展開推進事業としての将来の事業計画

#### 1. 対象地域・国における感染症分野の公衆衛生・医療水準の向上

- 本事業は、WHO西太平洋地域内における新興再興感染症、特にCOVID-19の臨床マネジメントや感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策の改善に寄与したと考えられる。
- しかし、これらの地域における感染症対策は日本と比べると不十分であり、継続的な日本の医療技術の展開が必要と考えられる。
- 実際に、2021年3月以降もWHO西太平洋地域事務局からの依頼で、カンボジア、ラオス、モンゴルにおけるCOVID-19の臨床マネジメントや感染管理（特に隔離解除のタイミング）の改善のためのオンライン講習会（主に政府や主要医療機関対象）や、**各国のCOVID-19のナショナルガイドラインの評価・改善の依頼**が来ている。
- 今後も、日本で培ってきたCOVID-19などの新興再興感染症の臨床マネジメントや感染管理の医療技術を研修や教育を通じて国際展開し、各国のガイドライン策定や改訂に貢献し、**対象国の感染症分野における公衆衛生・医療水準の向上**に貢献できるよう努めたい。

最後に、将来の事業計画です。本事業は、WHO 西太平洋地域内における新興再興感染症、特に COVID-19 の臨床マネジメントや感染管理のキャパシティ向上、人材育成、アウトブレイク対策の改善に寄与したと考えられました。しかし、これらの地域における感染症対策は日本と比べると不十分であり、継続的な日本の医療技術の展開が必要と考えられます。実際に、2021年3月以降もWHO 西太平洋地域事務局からの依頼で、カンボジア、ラオス、モンゴルにおける COVID-19 の臨床マネジメントや感染管理（特に隔離解除のタイミング）の改善のためのオンライン講習会（主に政府や主要医療機関対象）や、各国の COVID-19 のナショナルガイドラインの評価・改善の依頼を頂きました。

今後も、日本で培ってきた COVID-19 などの新興再興感染症の臨床マネジメントや感染管理の医療技術を研修や教育を通じて国際展開し、各国のガイドライン策定や改訂に貢献し、対象国の感染症分野における公衆衛生・医療水準の向上に貢献できるよう努めたいと考えています。